

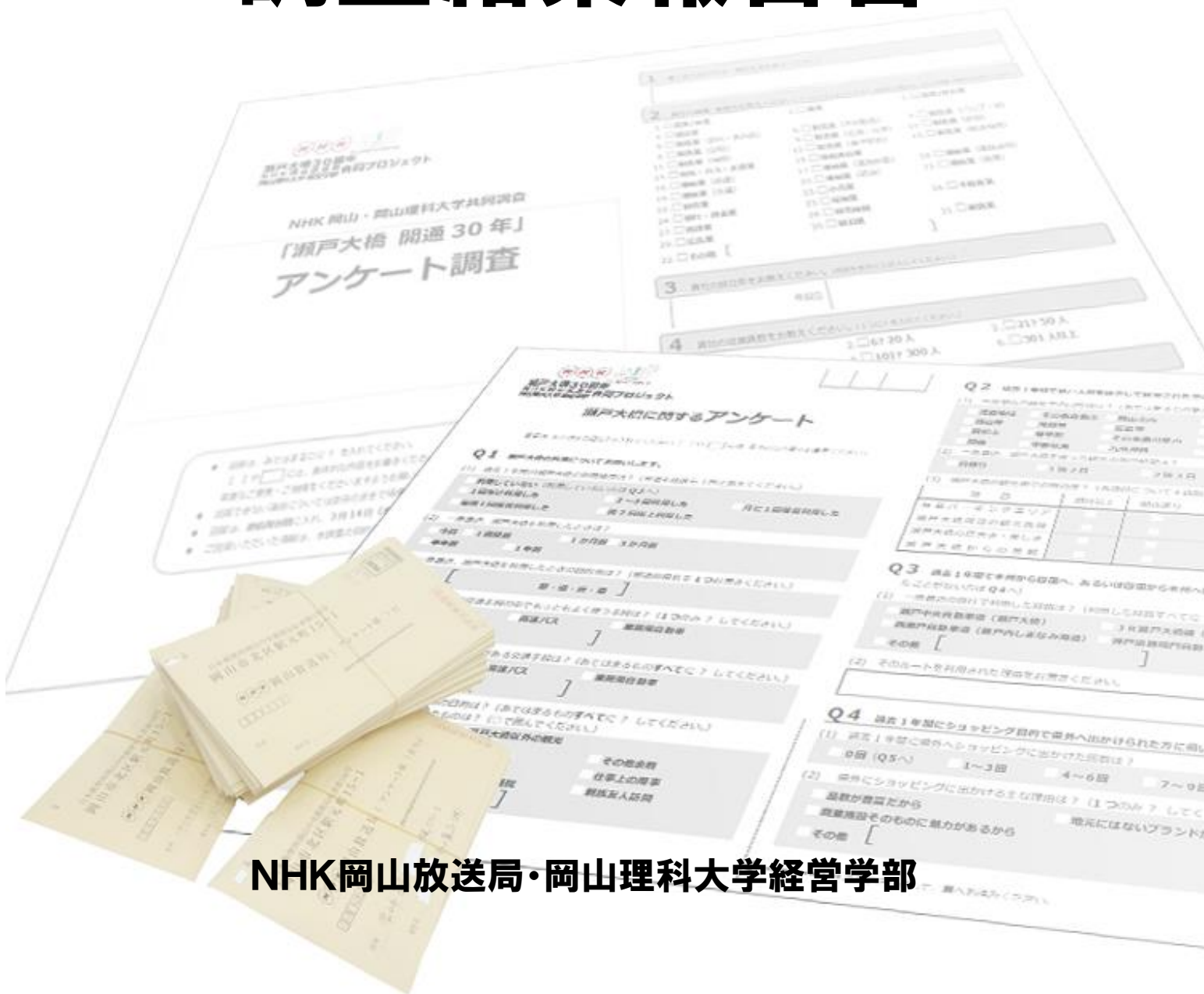
NHK岡山放送局・岡山理科大学経営学部共同プロジェクト

「瀬戸大橋 開通30年」

アンケート調査

(岡山・香川 1000 人・1000 社アンケート)

調査結果報告書



NHK岡山放送局・岡山理科大学経営学部

まえがき

2018年4月10日で開通から30年を迎えた瀬戸大橋がもたらしたものは何であったかを明らかにするために、NHK 岡山放送局と岡山理科大学経営学部が共同プロジェクトとして、本州と四国を結ぶ瀬戸大橋の両サイドである岡山県と香川県で大規模なアンケート調査を実施しました。具体的には、両県の計5カ所での1,000人を対象とした街頭アンケート（1000人アンケート）と両県の主要中小企業1,000社へのアンケート調査（1000社アンケート）です。前者の目的は、生活における瀬戸大橋の利用実態や個人レベルの意識を明らかにすること、後者の目的は、産業等における利用実態や影響度、価値などを明らかにすることです。

NHK 岡山放送局と岡山理科大学経営学部それぞれのプロジェクト担当者による企画打ち合わせを2018年1月に始め、調査方針および方法を検討・確認する2回の全体ミーティングを経て、街頭アンケート班と企業アンケート班に分かれて、2月から調査にとりかかりました。街頭アンケートでは、のべ108名の学生が計15回、街頭へ出て、街行く人に調査の協力をお願いし、目標である1,000人を超えた1,329人（最終集計値）の方から回答を得ました。企業アンケートも、岡山県と香川県の中小企業団体中央会のご協力をいただき、両県の計1,000社にアンケートを郵送し、郵送調査の回収率は1割程度といわれる中、約3割の282社から回答をいただきました。集まったデータをそれぞれの班で分析し、3月に中間発表会と最終報告会を行い、本報告に至りました。分析で明らかになった顕著な実態4つを、4月の第1週のNHK 岡山放送局の番組「もぎたて」の中で放送（同日の朝または昼のニュースでも同内容を放送）するとともに、瀬戸大橋開通30周年記念日の4月10日の特別番組でも調査結果の一部を紹介し、広く世間に知らせしました（次の11日の「もぎたて」では、この調査への学生の取り組みの様子も紹介しました）。この報告では、それらを含むすべての分析結果を掲載します。末尾には、報告会で使用したスライドも掲載しています。

1月末から3月末までという短い期間で、学生60名、教員・スタッフ9名、記者2名が力を合わせ、このプロジェクトを遂行したわけですが、予想通りであったもの、新たな発見、長い間に形成された根強い思いなど、あらためて瀬戸大橋を考えるに十分な情報が得られました。そこからは、地域による違いや年齢による違いも明らかになり、今後への示唆も多く含まれています。参加した学生たちにとっても、問題を解決していく本物のプロセスを体験したことと同時に、将来を担う世代として、「瀬戸大橋」を見つめ直すきっかけを得たことは、別の意味での収穫といえます。

本プロジェクトは、「瀬戸大橋」のいまを浮き彫りにするために行いましたが、それにとどまらず、地域の方々や少なくとも本調査にかかわった若者たちの経済活動や地域に対する「思い」の醸成にもつながる多くの成果を得たプロジェクトとなりました。

最後になりましたが、アンケートに回答いただいた方々や企業のみなさま、街頭調査の場所使用を快く許可してくださったみなさま、その他大勢の方々に協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。本報告書は、ご協力をいただいたみなさまへ個別にお届けすべきところですが、PDFデータでのWeb公開という形をとらせていただくことでお許しいただきたく思います。可能な限り、細かく分析をしたつもりですので、今後のさまざまなことに役立てていただければ幸いです。この報告書が「瀬戸大橋」および関係する地域のますますの発展につながることを期待しています。

2018年8月

NHK 岡山放送局・岡山理科大学経営学部共同プロジェクトメンバー 一同

本調査の報告会の後、急逝した延藤暁彦君に、本報告書を捧げます。

プロジェクトメンバー一覧

■ NHK岡山放送局

高橋 邦和 放送部 副部長
沼田 悠里 放送部 記者
磯野 真之介 倉敷支局 記者

■岡山理科大学

大藪 亮 経営学部 准教授 (2.3 節)
黒田 正博 経営学部 教授
清野 聡 経営学部 教授
松村 博行 経営学部 准教授
三原 裕子 経営学部 准教授 (2.2.3 節)
森 裕一 経営学部 教授 全体総括, 報告書編集 (1.1, 1.2.3, 1.2.4, 2.1, 2.2.5, 2.2.6 節)
山口 隆久 経営学部 教授 企業調査責任者 (2.2.4 節)
鷺見 哲男 経営学部 教授 街頭調査責任者 (I, 1.2.1, 1.2.2, 1.3 節)
高田 滋美 キャリア支援センター
高橋 良平 大学院 総合情報研究科 数理・環境システム専攻 博士課程 (2.2.1, 2.2.2 節)

総合情報研究科 修士 1 年

薦田 勇智 (ファシリテータ)
西山 ちとせ (ファシリテータ)
吉岡 嵩紹 (ファシリテータ)

社会情報学科 4 年

牧野 龍太郎 (ファシリテータ)
渡邊 陸斗 (ファシリテータ)
伊藤 颯太
角本 嘉基
梶 真
武本 祐明
橋本 陵汰
福田 昌太
宮本 凌佑
横田 圭亮

社会情報学科 3 年

市原 帆乃佳
市村 綾理
井上 響
上村 真穂
奥村 稔真

金丸 優里
蒲生 省吾
魏 琳
實近 優紀
塩谷 錬
末友 由夏
田坂 理州造
田中 拓海
友浦 安純
寺尾 和真
同前 雄太
豊岡 大直
中島 大地
中西 啓太
野田 有
延藤 暁彦
原田 健太郎
ハン ウンデ
平方 拓也
平松 優基
福岡 誉之
藤井 裕也

古田 真夕
三嶋 真由
椋木 瞭太
村上 翔紀
安田 真弓
山口 智也
山根 崇太郎

社会情報学科 2 年

石田 桜花
木村 里菜
近藤 南美
坂本 将希
谷 慧士郎
中田 智大
西江 克起
西山 哲司
長谷川 恭子
波多野 慶太
東 里奈
矢野 稜人

所属・役職・学年は、調査時（2018年3月）のものであります。

目 次

I 活動の概要	1
II 調査報告	7
1. 瀬戸大橋に関する街頭調査（1000人アンケート）	9
1.1 調査概要	9
1.2 調査結果	10
1.2.1 瀬戸大橋の利用頻度	10
1.2.2 瀬戸大橋と観光・ショッピング	14
1.2.3 瀬戸大橋に対する重要度と実現度に関する認識	21
1.2.4 瀬戸大橋の存在意義	24
1.3 考 察	27
2. 瀬戸大橋に関する企業調査（1000社アンケート）	29
2.1 調査概要	29
2.2 調査結果	30
2.2.1 調査対象企業概要	30
2.2.2 瀬戸大橋の利用頻度	31
2.2.3 瀬戸大橋の料金の影響	34
2.2.4 瀬戸大橋の企業活動への影響	36
2.2.5 瀬戸大橋の存在意義	42
2.2.6 瀬戸大橋の活用アイデア	44
2.3 考 察	47
III 資料編	49
A. 調査票	51
A.1 「街頭アンケート」調査票	51
A.2 「企業アンケート」調査票	53
B. 報告会スライド	55
街頭調査：回答者の様相（フェイスシートの分析）	56
街頭調査：瀬戸大橋の利用（Q1の分析）	58
街頭調査：瀬戸大橋を経由した観光（Q2, Q3の分析）	64
街頭調査：県外へのショッピング（Q4の分析）	68
街頭調査：交通手段の評価項目に対する重要度と瀬戸大橋での実現度（Q5の分析）	75
街頭調査：瀬戸大橋の存在意義（Q6の分析）	83
企業調査：瀬戸大橋30周年企業アンケート結果報告（質問1～8, 10の分析）	86
企業調査：瀬戸大橋30周年NHK岡山放送局合同PBL（質問8～10, 11の分析）	90
企業調査：瀬戸大橋の存在（質問9, 12の分析, 街頭調査のQ6も一部含む）	94
街頭調査：瀬戸大橋の存在意義と活用アイデア・要望（質問11, 12の分析）	97

I 活動の概要

活動の概要

調査の目的

2018年4月に開通から30年を迎えた瀬戸大橋が私たちにもたらしたものは何だったのかについて、本州と四国を結ぶ瀬戸大橋の両サイドである香川県と岡山県で大規模なアンケート調査を実施し、「瀬戸大橋30年目の再定義」に取り組み、国家的な大事業が人々の生活や企業活動に与えたもの、またその未来を浮き彫りにすることが、今回のプロジェクトの目的である。

調査の概要

生活における瀬戸大橋の利用実態や個人レベルの意識を明らかにすることと、産業等における利用実態や影響度、価値などを明らかにするために、街へ出た個人の意識を尋ねる街頭アンケートと企業の意識や取り組みなど聞く企業アンケートを、配布数をそれぞれ1,000として、企画・実施することとした。それぞれの実施内容は次の通りである。

(1) 街頭アンケート（1000人アンケート）

プロジェクト参加の全学生、全教員により、5箇所の調査地点で全15回の調査を実施、のべ学生108名、教員15名が参加した。回収した回答の分析は、3年次ゼミ2チームと2年次生の2チーム、計4チーム24名が行った。

アンケート調査回収数は1,329件である。

調査場所	調査月日（回数）	総計
JR岡山駅	2月17, 18, 19日（3回）	260
三井アウトレットパーク倉敷	2月18, 20, 24日（3回）	274
与島パーキングエリア	2月17, 18, 25日（3回）	262
JR高松駅	2月20, 21, 24日（3回）	250
高松丸亀商店街	2月17, 20, 25日（3回）	283
総計	—	1,329

(2) 企業アンケート

瀬戸大橋の両端の岡山県、香川県の中小企業団体中央会に協力をいただき、合計1,000社にアンケートを郵送、岡山県は505社に発送して151社、香川県は495社に発送して131社から回答をいただいた。分析は、3年次生を主とする4つのチーム、学生31名が取り組んだ。

本社所在県	送付企業数	返送数	回収率
岡山県	505	151	29.9%
香川県	495	131	26.5%
総計	1,000	282	28.2%

活動の実際

1 キックオフミーティング (1 月 30 日) と方針決定ミーティング (2 月 6 日)

NHK 岡山放送局, 岡山理科大学の参加学生および教員が全員集まった全体会を開催。1 回目はキックオフミーティングで, NHK アーカイブスの瀬戸大橋の動画を観た後, 本プロジェクトの趣旨説明と問題解決へ向けてのフリーディスカッションを行う。街頭調査 (1000 人アンケート) と企業調査 (1000 社アンケート) を実施することとし, ゼミ単位で 2 つの調査のいずれを担当するかを決め, 各チームで, 担当する調査の具体的な項目を考えてくることを次回までの課題とする。

2 回目では, 各チームから調査項目を発表し, それらを基に, 調査の基本方針と調査内容を確認し, 調査計画を決める。以後, 街頭アンケート班, 企業アンケート班それぞれで, 実際の調査に向けての準備作業に入ることにする。

2 街頭・企業アンケートの作成および実施 (2 月中旬~3 月初旬)

2 つの班それぞれで調査用紙を作成。街頭アンケート班は調査場所の選定, 企業アンケート班は対象企業の抽出にかかる。

街頭アンケートは, ターミナル駅として岡山駅と高松駅, ショッピング街として三井アウトレットパーク倉敷と丸亀商店街, 中間地点として与島サービスエリアを選び, 2 月 17 日から 25 日の間に, 各所に 3 回出かけ, 街行く人 200 人から回答を集めることを目標とする。所属班にかかわらず, 本プロジェクトに参加するすべての学生, 教員が調査員となり, 結果, 1,329 件の回答を回収する。

企業アンケートでは, 岡山県と香川県それぞれの中小企業団体中央会の協力をいただき, 岡山県内 505 社, 香川県内 495 社の合計 1,000 社を抽出し, 依頼文と返信用封筒とともに, 調査用紙を郵送する。2 月 26 日に発送, 3 月 14 日を提出期限とした。282 社からの回答を得る。



3 街頭アンケート班による中間報告会／企業アンケート班による進捗報告（3月6日）

3回目の全体会である。まず、街頭アンケート班の4チームから単純集計を主とした分析結果の概要と、自由記述形式の回答については、テキストマイニングによる分析が報告される。報告内容に対して、フロアから質問や分析に対するアドバイスなどが出され、最終報告に向けてより詳細な分析を行うことが確認される。企業アンケート班からは、調査の狙いや対象企業選定などについて、進捗報告が行われる。



4 街頭アンケート班最終報告会／企業アンケート班中間報告会（3月19日）

4回目の全体会で、街頭アンケート班各チームからの最終報告、企業アンケート班からの集計の中間報告が行われる。どちらの調査も目標数以上の回答が得られ、手ごたえを感じる報告となる。



テキストマイニングを含む街頭アンケートの最終報告では、居住地（岡山県か香川県か）や年齢（40歳未満か以上か）によって、瀬戸大橋に対する個人の意識に違いがあることなどが報告され、大変興味深い報告会となる。



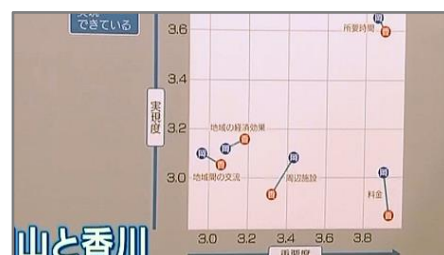
5 企業アンケート班最終報告会（3月28日）

企業アンケート班の最終報告会である。各チームからの分析により、ここでも、地域性（本社所在地が岡山県か香川県か）や業種（建設、製造、運輸、卸、小売、その他）によって、業務での瀬戸大橋の利用頻度、活用方法、影響、存在意義などに違いがみられた。



6 放送での結果紹介（4月2日～5日、10日、11日）

今回の調査において明らかになった様相のうち、特徴的な内容4つを4月2日（月）～5日（木）のNHK岡山放送局「もぎたて」（NHK総合・岡山県域 18:10～19:00）でニュースとしてオンエア、同じ内容を朝または昼のニュースでも放映する。番組では、3名の経営学部の教員がそれらの特徴について取材を受ける様子や与島パーキングエリアでの学生たちの調査風景を放映。また、瀬戸大橋開通30周年記念日の4月10日には、岡山放送局「もぎたて」と高松放送局「ゆう6かがわ」の合同特別番組で、居住地（岡山県か香川県か）と年齢（40歳未満か40歳以上か）によって、瀬戸大橋に対する重要度と実現度に関する認識に違いあることを紹介、その詳細は経営学部の教員が生出演して解説する。なお、本プロジェクトの様子や若者の意識を紹介するため、調査に参加した2名の学生（1人は岡



山, もう 1 人は香川の学生) から, 瀬戸大橋に対する思いや本プロジェクトにかかわって得られたことなどを取材し, 4 月 11 日の「もぎたて」で放映する。

7 最終データ集計と報告書作成 (5 月～8 月 3 日)

回収データをあらためて精査し, 最終的な分析を行い (上記放送時, 街頭アンケートの分析は 1 次集計の 1,314 人のデータを基にしたが, 最終集計では 1,329 人, 企業アンケートについては変更なし), 経営学部の教員が分担して, 分析結果を本報告書へとまとめた。

